

平成29年7月 経営協議会議事録

- I. 日 時 平成29年7月20日（木） 14時00分～16時13分
- II. 場 所 千葉大学けやき会館 レセプションホール（3階）
- III. 出席者 徳久学長、有馬、犬養、加賀見、香藤、河田、島田、銭谷、萩原、
舩橋、正宗、宮坂
中谷、渡邊、関、山田、猿渡、小澤、金原、佐藤、中山、齊藤
各委員
- ガバナー 桑古監事
(欠席者：黒木、西堀、武藤、堀、山本各委員)

議事に先立ち、徳久学長から、学内委員1名の紹介があった。

- IV. 前回審議議事録について
原案のとおり承認された。

V. 審議事項（◎学外委員、○学内委員）

1. 平成30年度概算要求（案）について

中谷理事から、「平成30年度園芸別科の廃止計画」について、関理事から、「戦略①GP基幹の機能拡充計画」について、渡邊理事から、「戦略②イノベーション教育センターの設置」及び「戦略③グローバル・キャンパス推進基幹の設置とアジア+アセアン・イノベーション創生拠点の整備」について、中山副学長から、「戦略④亥鼻キャンパス高機能化構想」について、猿渡理事から、「組織整備及び機能強化経費の概要」について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

主な意見は以下のとおり。

◆戦略②について

- ◎ 今回の新しい試みは、学生のニーズがあって行うのか又はサプライズ思考で行うのか。
- 従来より、本学では教員と学生との懇談会を実施しており、その中で学生からの要望を踏まえて提案した。
- アクティブラーニングのアカデミック・リンクは学生に人気がある。園芸学部学生からも、松戸に設置してほしい旨要望があり、今後設置する予定である。今回のスマート・ラーニングが機能すれば学生たちも喜ぶと考えている。

- ◎ 面白い試みである。大学の不祥事があったが、千葉大生の生き方や進むべき道などの学習項目が1つでもあるとよい。学生の考え方が変わるし、ひとつの解決方法になると思う。
- 学習手法に留まらず、本学の教養教育の中心的な課題になっていくと思うので、ご意見を基に柱を建てていきたい。倫理教育については、4月よりガイダンス等で行っており、秋からは、eラーニングで学習できる取組みを進めている。
- ◎ 今の時代に求められている素晴らしい試みだと思うが、学生が大学に来る時間が少なくなるという懸念があることによって、学生と大学の関係が薄くなるのではないか。また、スチューデント・アドバイザー（SA）は学生にどのようなアドバイスを言い、正しく導いていくのか。
- むしろ、今よりも大学に来るのではないかと期待している。最終的には大学へ来なければ、様々なコミュニケーションが取れないようなカリキュラムとして、改めて大学が極めて重要な場所であることを遠隔地に行くことで学んでもらうということの一つの目標にしている。

SAについては、すでにアカデミック・リンクの中で博士の学生がクラシックなカテゴリーの科目担当SAとして勤務しており、そのスキームをうまく利用しながら新しい授業の中で、どのようなSAが必要なのかを含めてスキルを身につけさせたい。また、戦略的な体制をとるべく、SAのシニアのような者を育成しつつ、さらに多くのSAを育成していくことも考えており、数年後にはワークスタディの環境を全面的に変えていきたい。
- ◎ スマート・ラーニングはこれから必須の授業になる。どの大学でも競って進んでいくと思うので、できるだけ早く体制作りをすることが大事である。

イノベーション教育センターの一つの柱として地域連携があるが、千葉の魅力、地域の魅力を発見し、それを情報システム化しないことに少し違和感がある。緑に包まれている千葉大学の各キャンパスは、一つの資源であり、そのような点も踏まえて、地域連携を図っていくことが大事ではないか。また、千葉大学憲章についても、地域社会との連携をもっと強調したほうが良いと考えており、このようなことを併せて見直した上で、地域連携や高大接続が生まれてくるのではないと思う。
- ◎ SAに引退された教員を入れてみてはどうか。また、千葉大学がどのような人材を作りたいかなどを初年次教育で教えて、千葉大学を卒業したことに自信が持てるような学生を育てれば、国立大学としてユニークなことができるのではないか。

◆戦略③について

◎ 国際日本学プログラムについて、学生は関心を持つと思うが、具体的に何を教え、どういうことに応えようとしているのか。

○ 国際日本学プログラムはすでに実施しており、外国から来た留学生に教養教育を勉強していただくJPAC (Japan Program at Chiba) を拡大し、全学の学生が修了証書を取得できるシステムを確立している。

なお、本学学生には、30単位で国際日本学の修了証書を授与できるようになっており、内容は日本を勉強することから始まり、もっと専門に近いようなことも入っている。このプログラムをそのままタイに持っていき、日本文化や日本とアジア或るは世界との関係に関する授業を一括して行い、国際日本学プログラムとしての学位を授与したいと考えている。

現在は、国際教養学部所属の教員が、文理混合で教えている。また、将来的には現地での教員採用も考えている。

◆戦略④について

◎ すばらしい構想であると思うが、地域医療の振興は千葉大学にとって大きなミッションだと思うので、地域医療に貢献することも構想に入れた方がよいのではないか。

○ 薬学としてもAIを使った創薬面などコミットできると考えている。

○ 医療系は社会のニーズが大きいいため、応用としてのAI技術を使いながら成果を作る。だからこそ医・薬・看護学部がある亥鼻キャンパスにセンターを作り、それを西千葉の認知科学などの文系へ波及させて全学的な機能強化を図るという構想で進めている。

2. 「キャンパスマスタープラン2017」について

中谷理事から、「キャンパスマスタープラン2017」の概要について、説明があった後、上野キャンパス整備企画室長から資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

主な意見は以下のとおり。

◎ 世界の中で日本の大学キャンパスの整備は遅れており、特に日本の大学でも私立大学に比べて、国立大学は良くない状況にある。その中で、千葉大学はキャンパスマスタープランを作成した上で、美しいキャンパスを目指しており、広く大学の教育研究振興の観点からも大事なことであると考えている。

また、耐震化がほぼ完了してきたことは評価したい。より一層地域に開放されたキャンパスとなることを期待している。

- ◎ キャンパスサステイナビリティは大切であるが一方で、美しさ、キャンパスセーフティなどが欠落していると思う。

VI. 報告事項

1. 学長選考会議の審議状況について

柳澤学長選考会議議長代理から、学長選考会議における学長の業績評価の結果について、説明があった。

2. 第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価の結果について

中谷理事から、第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価の結果について、資料に基づき説明があった。

3. 平成29年度学内研究推進事業「千葉大学リーディング研究育成プログラム」の審査結果について

関理事から、平成29年度学内研究推進事業「千葉大学リーディング研究育成プログラム」の審査結果について、資料に基づき説明があった。

4. 卓越大学院構想について

中谷理事から、卓越大学院構想の概要について、資料に基づき説明があった後、各構想担当からそれぞれの構想について資料に基づき説明があった。

5. 平成29年度「学長と学部長等との夏季特別集中討議」について

中谷理事から、平成29年度「学長と学部長等との夏季特別集中討議」について、資料に基づき説明があった。

6. 平成28年度卒業生・修了生の進路状況について

渡邊理事から、平成28年度卒業生・修了生の進路状況について、資料に基づき説明があった。

7. その他

①秋の卒業式・大学院修了式・学位記授与式及び大学院入学式について

渡邊理事から、秋季に開催される千葉大学卒業式・大学院修了式・学位記授与式について、平成29年9月28日開催分より合同で実施すること及びその他変更事項について、説明があった。

②本学の学生・職員による不祥事への対応について

渡邊理事から、本学の学生・職員による不祥事への対応について、説明があった。

以上